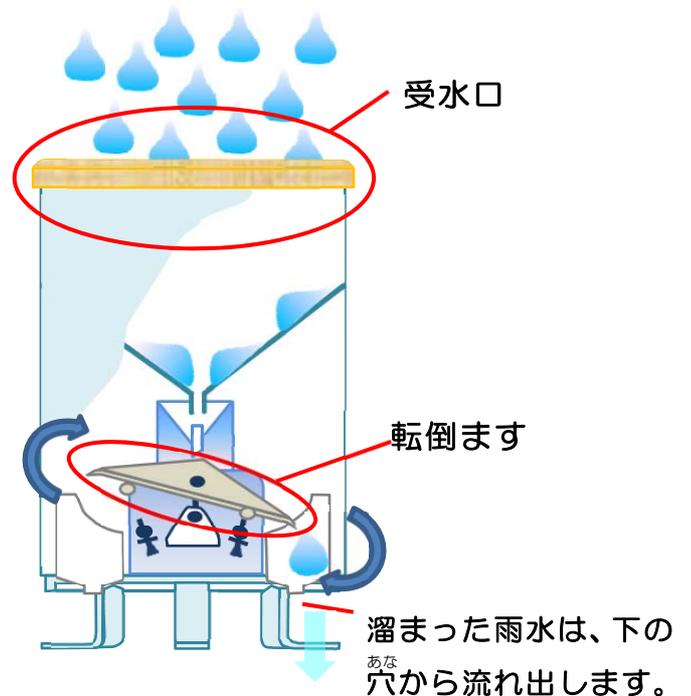


雨^{こすいりょう}の量（降水量）は「転倒^{てんとう}ます型雨量計^{がたうりょうけい}」
という気象測器^{きしょうそくき}で観測^{かんそく}しています。

※雪が降った場合は、雪を雨量計^{うりょうけい}のヒーターで
とかして降水量^{こすいりょう}として観測^{かんそく}しています。



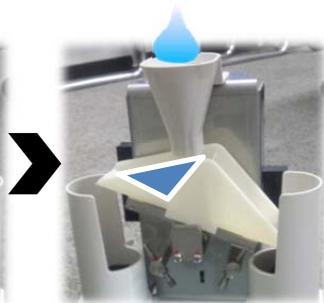
降^ふってきた雨^{あめ}は受水口^{じゅすいぐち}で集められ、
雨量計^{うりょうけい}の中の転倒^{てんとう}ますにたまります。転倒^{てんとう}
ますは、雨水^{あめ}が決まった量の重さになると
転倒^{てんとう}するしくみになっています。転倒^{てんとう}ます
は左右^{ひだりみぎ}に2つあり、シーソーのように、「雨
水^{あめ}がたまっては倒れ^{たお}、たまっては倒れ^{たお}」を
交互^{こうご}に繰り返^くわせます。



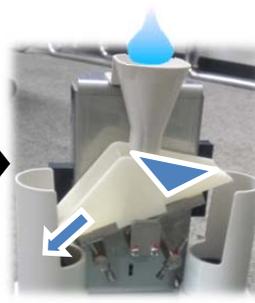
「決まった量の重さ」というのは0.5ミリ相当の雨水の重さで、1回転倒すると0.5ミリの雨^{あめ}を観測^{かんそく}したことになります。たとえば、1時間に10ミリの雨が降った場合、転倒^{てんとう}ますは左右それぞれ10回ずつ、計20回転倒^{てんとう}したことになります。



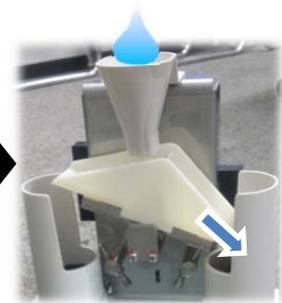
雨が降る前。



雨がますにたまる。



一杯になって転倒すると0.5ミリ。もう一方のますに雨がたまる。



もう一方のますも一杯になって転倒すると1.0ミリ。